教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森戸卓也
編集人 小林健
電話 050（3538）2346
1部15円 年定価360円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2023/12・15
No.2083

・兵教組教育課程学習会
・第73次全国教研リポーター決定！
・こどもの詩と絵 第43集より

「兵庫の教育をよくする県民署名」をもとに、県・県教委・県議会へ要請

兵教組は、「ゆたかな教育の創造をめざす兵庫県民会議（略称 教育創造県民会議）」とともに「兵庫の教育をよくする県民署名」にとりくみ、211,229筆の署名を集約した。12月7日、その署名をもとに県教委に要請し、回答を得た。また、県議会副議長・各会派に対しても要請書を提出した。

▲県教委への要請行動の様子

▶村田教育次長に署名を手交する出石弥生事務局次長（連合兵庫）

県教委からの回答は次の通り。

教職員の未配置問題、長時間労働是正について

教員の採用は、数年先までの児童生徒数に応じた教員定数、退職者数や再任用者数等をふまえ年度ごとの大幅な増減が生じないよう、採用数を平準化しながら中長期的な計画としているが、今年度の採用試験では、教員不足の状況もふまえ合格者数を当初の予定より50人程度増員したところである。その他にも、経験年数に応じた採用試験における加点措置や教員志望者の確保にむけたPR動画の追加制作、県立学校への職員派遣による魅力発信をおこなっている。今後もあらゆる方策にとりくみ、教員不足の解消にとりくんでいく。

教職員の長時間労働是正については、教職員定数の改善など国による人的措置が不可欠なことから、引き続き国へ強く要請していくとともに、教職員が能力を十二分に発揮し、教育活動にとりくめるよう、外部人材やICTの活用等により、業務の効率化や削減に努めていく。

スクール・サポート・スタッフの配置促進について

2023年度については、県の予算を拡充し、希望する各市町のすべての小・中学校・義務教育学校・特別支援学校に配置している。

この事業については、市町の予算措置が必要であることから、来年度の実施にむけ、各地教委に対して働きかけをおこなっており、現時点での配置予定校数は、今年度の実施校を大幅に上回る見込みである。

今後も、国に対して、国庫補助率の拡充など、市町が活用しやすい制度となるよう強く要望していく。厳しい県の財政状況ではあるが、どのような対応が可能か、検討していく。

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置および配置時間数の拡充について

スクールカウンセラー（以下、SC）については、すべての公立中学校・義務教育学校・中等教育学校への配置に加え、2023年度も、134校の公立小学校に配置している。今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響による精神的に不安定な児童生徒の心身の状況を把握するとともに、児童生徒の心の理解とケアへのとりくみの必要性から、10月に1校あたり17時間分、各市町の実情に応じ調整し、追加配置できるようにした。

昨年度より学校問題サポートチームを教育事務所に設置し、SC・スクールソーシャルワーカー（以下、SSWr）をコアメンバーとしており、ヤングケアラーや児童虐待事案に対しても、助言等の支援がおこなえるよう支援体制を整えている。

SSWrについては、教育事務所への配置に加え、2016年度からは国から直接補助を受けることができる政令市・中核市を除く中学校区への配置をすすめ、2019年度からは、すべての中学校区に配置して活用をはかっている。

引き続き、県教委としても、児童虐待やヤングケアラーを含めた児童生徒の相談体制の充実をはかっていく。

いじめや不登校に対応するための加配の維持・拡充について

いじめへの対応については、法律や通知、また県のいじめ防止基本方針等にもとづき、未然防止、早期発見・早期対応、重大事態への対処等のとりくみを推進している。また、不登校対策については、本年度から「ひょうご不登校対策プロジェクト」を立ち上げ、学校、地域、支援関係機関、教育行政が相互に連携し、全県が一丸となり不登校対策を推進しており、各校では組織的、計画的なとりくみとなるよう指導しているところである。

生徒指導担当教員や不登校担当教員については、児童生徒数が減少する中で、一部県単独措置もおこないながら、その必要数の確保について努力をしてきたところである。

生徒指導担当教員や不登校担当教員は、国の児童生徒支援加配等を活用し、一定の基準を設け、地域や学校の実情をふまえて配置をおこなっている。今後も引き続き、問題行動や不登校等の対応について、加配教員の確保に努めるとともに、生徒指導相談体制の充実にむけた定数改善について国に要望していく。

ICT支援員の配置や機器の更新等の予算配置について

ICT支援員については、国（文部科学省）による「教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画」にもとづく地方財政措置が、2024年度まで延長されており、有効に活用するよう地教委に促していく。

また、国の2023年度補正予算が成立し、2025度までの1人1台端末の更新費用が計上された。本県としてもGIGAスクール構想第2期にむけて、更新に係る基金を造成し（2023年度2月補正予定）、計画的・効率的な端末整備ができるよう地教委を支援していく。

兵庫の防災（減災）教育の充実、学校施設の防災機能強化のための予算措置について

避難所の指定については学校が所在する市町の防災部局がおこなっているが、県教委が作成した「学校防災マニュアル2019年度改訂版」で、「学校施設・防災機能の強化」について記載しており、学校が避難所となった際に対応できるよう示している。

避難所として指定された学校施設の防災機能強化については、設置者である各地教委が主体となって実施しており、県教委は、国の財政支援制度（学校施設環境改善交付金）を有効活用できるよう各地教委へ助言・啓発をおこなっている。

県としては、財源確保や財政措置の拡充について、国の予算編成等に対する要望や、公立学校施設整備にかかる財源確保等を目的とした「全国公立学校施設整備期成会」を通じた要望により、引き続き国に対してもとめていく。

学校の統廃合について

設置者である市町が地域住民等と十分な議論をおこないながら検討していると認識しており、県としてはその判断を尊重する立場にある。

各市町における学校規模の適正化にむけた検討は、統廃合もしくは存続のいずれかのゴールありきで、行政が一方的にすすめるものではなく、通学している児童生徒の声や児童生徒の保護者、将来の受益者である就学前の子どもの保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得るなど、「地域とともにある学校づくり」の視点をふまえた丁寧な議論をおこなうことが望まれる。

廃校施設の利活用については、基本的に市町がおこなうものである。しかし、県としては、阪神地域や東播磨地域の知的障害特別支援学校狭隘化対策事業において、新たな特別支援学校の設置のため、閉校予定の市立学校敷地および校舎を提供いただいた事例もあり、廃校となった学校園施設・設備の有効活用方法について市町等と連携をはかっていきたい。

学校施設の整備について

市町立学校施設の整備については、設置者である各地教委が主体となって実施しており、県教委は、国の財政支援制度（学校施設環境改善交付金）を有効活用出来るよう各地教委へ助言・啓発をおこなっている。

各地教委が学校施設の老朽化対策やトイレの洋式化・乾式化、空調設置といった環境整備を計画的に実施できるよう、国に対して財源確保や財政措置の拡充について、引き続き要望していく。

教育創造県民会議は、地域・家庭・学校が一体となって相互に連携し、「21世紀のゆたかな教育の創造」にむけ、地域の保護者・働く仲間・教職員・県民が連帯を深めながら、家庭や地域の教育力の活性化と子どもたちの人間的な成長をめざしている。

地域のみなさんにも協力いただいた県民署名のとりくみに感謝するとともに、署名に表れる思いを重く受けとめ、今後も兵教組は、教育創造県民会議とともに教育環境の充実と子どもたちのゆたかな学びと育ちをめざしてとりくんでいく。

▲県議会副議長に要請する様子

211,229筆集約!!

ご協力いただき、ありがとうございました！

学校事務実践講座

12月1日、ラッセホールで、学校事務実践講座が開催され、学校行財政部会研究所員や各地域組合の事務職員40人が参加した。開会行事のあと、学校行財政部会より「学校財務領域へのかかわり～就学保障の視点から～」と題した問題提起があった。その後、4つのグループにわかれてグループワークがおこなわれ、問題提起の中で気づいたことや、各地域組合の実態等を話し合い意見交流をした。

この講座は、兵庫教育文化研究所【学校行財政部会】が、学校事務職員のより積極的な学校運営への参画をめざす中で、学校事務職員の「研修」のひとつとして企画、実施している。

今次講座は、2022年2月に発行したリポート「子どもの就学保障を考える」をもとに、各地域組合の実態等の交流を通して、教職員や関係機関との協力協働により「等しく学べる教育環境」を整備するため、学校事務職員として何ができるのかを考える機会とすることを目的としておこなわれた。

兵教組教育課程学習会

学校、家庭、地域が手を携えて、子どもの意欲を高め、学ぶ楽しさを生み出す教育課程編成をすすめよう!

12月9日、ラッセホールで教育課程学習会が開催され、県内各地より約30人が参加した。

問題提起では、「第46次教育課程実態調査」の結果と教育課程編成上の課題を取りまとめた討議資料「学校発・兵庫の教育改革―すべての教職員が関わる、教育課程の創造的編成のために―」をもとに報告がおこなわれた。

続いて、「学校で工夫している具体的なとりくみ」と題して、川西・多田小分会と佐用・三日月中分会より、各分会での実践をもとに報告がおこなわれた。

多田小分会からは「3年生以上で学級担任制をやめ、学年担任制を導入をした。それにともない教科担任制も導入し、授業を1コマ40分、午前に5時間とした。40分授業にしたことで、子どもたちの集中力が増し、授業にしっかりとりくめている。

またコマ数が増えることで授業時数が確保され、指導に余裕が生まれた。自分たちで改革をすること、当たり前を見直し、自分たちで一歩すすんでみることがとても大事である」と報告された。

三日月中分会からは「7時半から実施していた朝練をやめるとりくみをおこなった。朝練をやめると遅刻してくる子どもが増えるのではないかと心配だったが、ゆとりをもって登校するため、遅刻する子どもはほとんどいなくなった。一部の保護者からの、『もっと部活をさせてほしい』という声には、代わりに放課後の練習を充実させるようとりくんでいる。

教職員も勤務開始時刻までに行けばよくなり、子どもの様子を見たり、少し早く来て教材研究など準備ができたり、放課後に早く帰れるといったメリットがある。

課題として、朝に教材研究をしても、帰る時間が遅くなる日もあるといった声も聞く。しかし、トータルで見ると勤務時間の縮減につながると思う。いろいろな視点を持ちながら、管理職が一方的にすすめるのではなく、分会会議での議論をふまえて決めていく。意見を出し合い、合意形成をしてやっていく。そこの部分を大切にしながらとりくみをすすめていくことが大切である」と報告された。

グループ討議では、教育課程再編成のとりくみについて、各分会でのとりくみや実践をもとに思いや悩みを共有する機会となった。

【参加者感想】

・他地域の現状や工夫を聞くことができ、大変勉強になった。教育課程を編成していくうえで、大切なのは「各学校の子どもたちにとってプラスになるか」だと改めて思った

・教職員にとってのゆとり、子どもにとってのゆとりとは何か考えるよい機会となった。その視点を持ったうえで働き方改革をすすめていかなければならないと思った

・私たちの働き方改革に直接関わる教育課程だが、実際、日々働きながらその課題について考えて議論する時間をつくり出すことは難しい。今回のように具体的な実践を聞かせていただき、すごく良い機会となった。前例やモデルを紹介していくことで活動が広まっていくと思うので、地域組合の学習会でもうまく広めていきたい

▲利根広昭さん（川西）による実践報告の様子

第７３次全国教研選出リポーター決定！

２０２４年1月に開催予定の全国教研のリポーターが決定した。
兵庫の子どもたちのために、全国の仲間とともに討議を深めよう。

No	分科会	地域組合	名前	タイトル
1	日本語教育	宝塚	後藤 勝恵	複数作品で読書の面白さを味わおう
2	外国語教育(A小学校)	西宮	北倉 謙子	結婚を題材にした外国語指導及び授業づくり
2	外国語教育(B中学校・高校)	氷上	伊藤 憲司	学習意欲を高める指導
3	社会科教育(B現状認識)	播磨	田中 一平	地域性を生かし、自分から考えをもち、すすんで表現することをめざした授業づくり
4	算数・数学教育	美方	山田 将司	自ら学ぶ児童の育成
5	理科教育	姫路	中島 秀作	身近な生活に生かすための理科教育のとりくみ
6	美術教育	姫路	前田 泰資	見て、感じて、話し合おう
7	音楽教育	美方	笠原 健志	だれもが音楽活動を楽しむことができる授業づくり
8	家庭科教育	津名	中村 真理子	よりよい生活の実現に向けて高齢者と協働する
9A	保健・体育A保健	津名	大矢 真梨子	熱中症より怖いもの……
9B	保健・体育(B体育)	播磨	西川 康平	運動が「好き」「楽しい」と思える子をめざして
10	技術職業教育（A技術教育）	氷上	吉田 恭兵	地域の特産物を題材にした主体的な学習活動
11A	自治的諸活動と生活指導(A小学校)	氷上	荻野 雅裕	自ら考え、つながり、ともに育つ　子どもの育成をめざして
11B	自治的諸活動と生活指導（B中学校・高校）	南あわじ	河野 真也	子どもの「やりたい」から生まれる学校づくり・伝統づくり
12	幼年期の教育・保育と連携・接続	伊丹	村上 幸綺子	「子どもの主体性を育む教育・保育をめざして」
13	人権教育	津名	坂本 研二	地域に根ざした同和教育・人権教育の再構築
14	インクルーシブ教育	芦屋	田邊 智子	「ともに学ぶ」ということ
15	国際連帯・多文化共生の教育	姫路	西野 明美	多文化共生教育
16	両性の自立と平等をめざす教育	豊岡	大封 希林	性の多様性について考える
17A	子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育(A環境・公害)	尼崎	三宅 勇介	地域の青々と学ぶ環境教育
17B	子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育(B食教育)	南あわじ	佐藤 知代子	食で育む元気な市っ子
18	平和教育	宝塚	中村 英文	鵯野飛行場で検証！？軍都・姫路！？
19A	メディア・リテラシー教育と文化活動(A情報教育・学校図書館教育)	南あわじ	藤平 昌彦	ことばの力を育てる読書活動の充実
19B	メディア・リテラシー教育と文化活動(B学校・地域の文化活動)	尼崎	尾崎 錬	地域の人・もの・こととつながり発信しよう
20	高等教育・進路保障と労働教育	氷上	大西 倫央	学びたい学校で学べる進路の実現に向けて
21	カリキュラム	尼崎	小倉 雅史	地域・学校園・子どもたちがともに創造する教育課程
22B	地域における教育改革とPTA(B PTA・地域の連携)	三田	山口 暁	地域が支える農業体験学習
22C	地域における教育改革とPTA(C 通園・通学・べき地の教育)	南あわじ	野口 哲司	ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる心豊かな沼島っ子の育成
23	教育条件整備の運動	宝塚	藤井 美沙	教育活動を充実させるための働き方改革
24	総合学習と防災・減災教育(Aものづくり・生活の中から)	尼崎	植田 浩輝	ふるさとの良さに気づき、課題を探究する子
24	総合学習と防災・減災教育(Bいのち・共生の視点から)	加西	明井 真悠	子どもが自分事として考える防災

「ハチ高原の四季」

高砂市立高砂中学校　1年　得田　歩

春がくる
ひと月おくれの桜が咲く
つくしや山菜とりが楽しい
遠くに見える氷ノ山には
まっ白な雪がのこる

夏がくる
濃い緑に虫たちがとび回る
クワガタ、アゲハ、オニヤンマ
虫たちのパラダイス

秋がくる
早くもススキの銀の海
あっという間に、紅葉、人工雪の山

冬がくる
一面　雪におおわれて
ぼくの得意のスキーができる
ぼくは一等　冬のハチ高原が好き

『こどもの詩と絵　第43集』より

あんしん むすぶ
教職員共済
さまざまな声に応える生命・医療保障

死亡　団体生命
入院　医療共済
特定の病気など　医療共済

トリプルガード
団体生命共済・医療共済

トリプルガードは、「死亡」を保障する団体生命共済と、「入院」「特定の病気など」を保障する医療共済で、３つのリスクをガードするという意味からつけた愛称です。

貯金もしたいし
手頃な掛金で
最低限の保障から
はじめたいな

家族構成などの
変化に合わせて
契約内容を
見直せるといいね

配偶者やお子さまもご加入OK！
詳しくはホームページへ！
お問い合わせもお気軽にどうぞ！

教職員共済　検索
https://www.kyousyokuin.or.jp/

※ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書（契約概要・注意喚起情報）をご覧いただき、制度内容をご確認ください。

資料請求・お問合せは
厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合　兵庫県事業所
〒650-0004　神戸市中央区中山手通 4-10-8 ラッセホール 4F
TEL 078-221-9730

イメージキャラクター
あむりん